

人材育成

世界へ羽ばたく
国際医療プロフェッショナル

コロナ禍を経験したヘルスケア業界は、グローバルに活躍する人材がますます求められています。今回は、国際学会への参加レポートと医師の立場から考える国際医療人材育成についてご紹介します。



APIC 2023 参加レポート (6月26日(月)～28日(水) / 米国フロリダ州オーランド)

かつてない経験と学び、思い切ることの大切さ

岡山大学大学院 保健学研究所 藤本要子

初めての国際学会にチャレンジ

私は、感染管理認定看護師で、現在は岡山大学大学院の博士後期課程に在籍し、高齢者施設における感染管理に関する研究に取り組んでいます。研究がまとまり「せっかくだから大きい国際学会にチャレンジしてみよう!」と思い、APICにポスター発表として演題登録をしました。ありがたいことに、(一財)松本記念財団のご支援を受けることが決まり、その一環で Ruth Fallon 先生にポスターを見ていただきました。アドバイスをもとに大幅にブラッシュアップし、ポスターを完成させました。

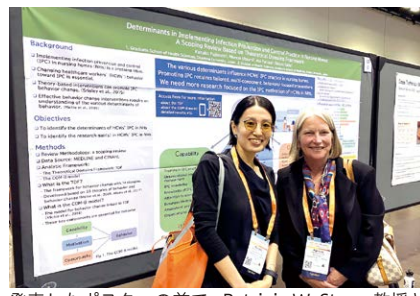
APICのポスター発表は、決められた時間にポスターの前に待機して来訪者の対応をするという形式です。「英会話は自信がないし、そっと立っておいてやり過ぎればいいかな…」と考えていたのですが、そんな消極的な私を見兼ねた先生に「せっかくアメリカに行くのだから、しっかり自分の研究をアピールしてきなさい!」と喝を入れられました。そこからは、英語でのプレゼンの特訓の日々。言いたいことを

絞り、どうにか及第点をもらえるようになりました。

憧れていた教授との出会い

発表当日は心臓が口から飛び出るほど緊張しましたが、サポートをしてくださった先生方や共同研究者の先生方からの激励の言葉を思い出し、果敢にプレゼンしました。「すごく素晴らしいポスター!」とってくださいました。

その中で、とても嬉しいことがありました。それは、APICの学術ジャーナル『American Journal of Infection Control』の編集長である Patricia W. Stone 教授が私のポスターに立ち寄ってくださいました。憧れの Stone 先生に私の研究を直にプレゼンする機会を得たことは、本当に嬉しいことでした。



発表したポスターの前で、Patricia W. Stone 教授と

3日間の APIC 参加期間中、アメリカで感染管理に従事する実践家や研究者との交流や、いろいろなセッションを聞くなどの経験ができました。また、病院以外で活躍する感染管理を専門とする看護師の方がたくさんいたことも印象的で、少し視野が広がったような気がします。

国際学会での発表は楽しい!

今回の APIC 参加を振り返って強く感じたことは、「思い切ってやってみたらなんとかなる!」ということです。大変なこともあったけれど不思議なほどうまくいったことに驚いています。

国際学会に行くと、世界に感染管理の仲間がたくさんいることを実感できます。日本の感染管理の素晴らしい実践を世界に発信して、知見を互いにシェアしていければ良いと思います。今回の経験は、きっとこれからの私を後押ししてくれると思いますし、日本の感染管理の研究をもっと盛り上げていきたい!という私の密かな思いにもつながりました。

この度の支援を心より感謝しております。本当にありがとうございました。

APIC2023... Association of Professionals in Infection Control and Epidemiology (APIC) 2023 annual conference & exposition (感染管理疫学専門家協会の2023年カンファレンス・展示会)。(一財)松本記念財団では、感染対策に関する自らの実践や研究を海外学会で発表する意思を持たれる看護師に対し、その費用の一部を助成する助成制度を設けています。今回は APIC2023 での発表者を対象に募集を行い、厳選な審査のうえ藤本要子氏を選出しました。

※この文章は、(一財)松本記念財団の Web サイトに掲載されたものを要約したものです。

全文はこちらからご覧いただけます。
<https://www.matsumotofoundation.com/fosteringresource>





人材育成

世界へ羽ばたく
国際医療プロフェッショナル

国際的な視野をもつ医療人材の育成

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 統合臨床感染症学分野
教授 具 芳明

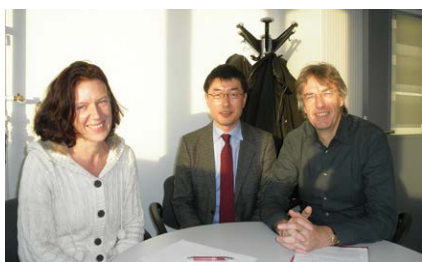


海外研修で培った経験から、国際的な視野をもった医療人材育成に取り組んでいます。

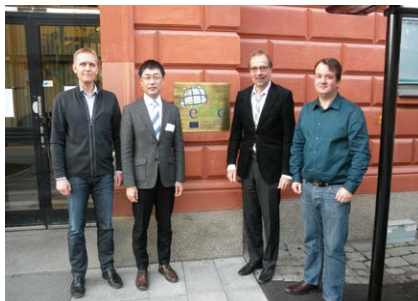
学びを自ら策定

私は2013年、松本記念財団にご支援いただき、海外短期研修の機会を得ることができました。決まったプログラムがあったわけではなく、自分でプログラムを組むという自由度の高い提案を2013年5月にいただいたのがきっかけです。

当時、感染症医として東北大学に勤務しており、日本では確立されていなかった抗菌薬使用量サーベイランスに関心をもっていました。そこで、ヨーロッパ諸国でいち早く構築されていたサーベイランスに関する論文(Lancet. 2005;365:579-87.)の筆頭著者であるHerman Goossens先生(アントワープ大学)の元で学びたいと考えました。偶然にも2013年6月に国際学会に参加する機会があり、座長をされていたGoossens先生に直談判し、短期研修の許可をいただきました。さらに、サーベイランスの事務



アントワープ大学にて



ECDC(欧州疾病予防管理センター)にて

局となっているECDC(欧州疾病予防管理センター)、同じストックホルムにあるスウェーデンの感染症研究所を訪問してはどうかとの提案までいただいたのです。各所とメールのやり取りを繰り返し、ベルギー(アントワープ)とスウェーデン(ストックホルム)を回るプログラムを組みました。

真摯な対応に感銘

研修の時期は2013年11月末から12月にかけてとなりました。クリスマス前の華やかさはあるものの、夜が長く寒い時期だったことをよく覚えています。研究機関3か所を回り、薬剤耐性(AMR)対策とくに抗菌薬適正使用をどう進めるか、どのようにサーベイランスを構築し分析するかを学ぶことができました。ヨーロッパ諸国のAMR対策への本気度を知り、当時の日本の対応の遅れを実感しました。

なによりも印象深かったのは、押しかけるように訪問した私一人のために一流の研究者が丁寧に、ときには予定を大幅に超過しながらディスカッションしてくださったことです。その懐の深さに感銘を受け、強い印象とモチベーションを与えられたことを、今も折に触れて思い返します。このときに培った経験と人脈は、後々AMR対策に携わる中で大いに役立ちました。

世界に目を向けて活躍する人材に

私は現在、東京医科歯科大学で感染症診療、感染制御を担当しています。人を育てる立場となり、学生や若手医師・医療従事者と接する機会が増えました。感染症は国境を越えて広がるものであり、地域による特徴があります。また、感染症は社会的な弱点を突いて広がることが多く、新型コロナウイルスパンデミックでも社会的経済的弱者へのインパクトが大きかったとの報告があります。

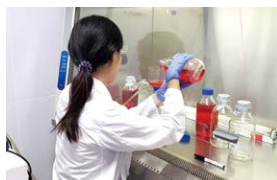
感染症領域は微生物から個々の患者対応、公衆衛生対応まで裾野が広いものです。感染症を学ぶことは、広く世界の状況や人々の生活に関心を寄せ想像を働かせることにつながります。若者には視野を広くもち、見聞を広げて国際的な視点をもって活躍してほしいと日々取り組んでいます。

トビタテ留学 JAPAN

体験記

サクラファインテックジャパン(株)
マーケティング部

大野 絢音



研究に打ち込む筆者

学生時代にトビタテ留学 JAPAN(以下トビタテ)という制度を利用し、1年間タイに留学しました。トビタテは文部科学省が展開する官民協働のプロジェクトで、企業や団体等から寄付を募り、高校生や大学(院)生の留学を支援する制度です。私は大学で免疫の研究を行う傍ら、青年海外協力隊 OBの方とも出会い、地方の病院や高齢者のデイケアセンターも案内していただきました。トビタテのおかげで経済的な心配をすることなく、人と機会に恵まれた留学が実現できました。

松本記念財団もトビタテへの寄付を実施されていると伺い、OGとして大変嬉しく思いました。今後も、留学に興味のある学生の方が一人でも多く“トビタテる”ことを願います。



タイのランドマーク「ワット・アルン」(暁の寺)



R-SUD 視察報告

UCLA ロナルドレーガン医療センター

2023年7月12日(水)に米国カリフォルニア州にあるUCLA ロナルドレーガン医療センターを訪問しました。訪問の契機は、私が所属するサクラグローバルホールディング(株)の米国の拠点がカリフォルニア州トーランスにあり、出張時にR-SUDの米国での活用状況の調査をしたいと思い日本ストライカーの野中JRSA 副理事長に相談して実現しました。

(一財)松本記念財団 理事・事務局長 長谷川フジ子

UCLA ロナルドレーガン医療センター概要

全米でもトップクラスの病院で、近年でも良い病院の世界ランキング「WORLD'S Best Hospitals 2023」で第10位に選ばれています。なお、UCLA グループとしては、4つの病院と260以上のクリニックを有しています。

視察内容

同病院の購買担当者にあたる Sustainability Analyst の Mr.Noah にインタビューを行い、現場視察時は米国ストライカーの Ms. Brittany が案内してくれました。お二人とも真摯に対応いただき、貴重な情報を得ることができました。

(1) インタビューの結果

UCLA ロナルドレーガン医療センターでは、R-SUD 製品の種類は、収集と使用実績を合わせて、約200製品の取り扱いがあり、病院のコスト削減効果は、平均で約50%、金額では年間\$449,335(約6,500万円)との情報を得ました(2022年実績)。

いわゆるPPI(Physician Preference Item)=製品選択に医師の裁量が強いもの=については、医師の裁量権は強いが、R-SUDを使用することのメリットを知らない医師もいるので、ケーススタディの紹介、安全性や効率性等のデータの提供やサンプルを見せてデモを実施するなどして理解を進めているとのことでした。安全性や不具合報告に関して、オリジナル製品と比較して特にR-SUD製品のほうが不具合報告が多いということは、



Ms. Brittany (後列赤い服) と Mr. Noah (後列中央)

今まで報告はありません。

UCLA グループは、収集時に現場の運用上の混乱を避けるために、シンプルにベンダーを1社(ストライカー)にしています。機器や機能によってベンダーを振り分けている病院もあるとの情報も得ました。また、米国では、全てのR-SUD製品について、法律的に患者の同意は必要ないとのことでした。

(2) 現場視察

EPカテーテルとケーブル類の収集エリアを見学しました。壁には「Remember to collect」とポスターが貼られ、それぞれの製品による収集方法が周知されていました。EPカテーテルは、汚れをふき取った後、専用のビニール袋に2重に入れて収集箱に保管され、ストライカーの専門チームが毎週現場に赴き、収集箱からこれらのデバイスを収集して再製造工場に運びます。保管エリアで、オリジナル品と再製造品の購入量の比率を確認すると、在庫があるものはR-SUD製品から使うルールとなっています。在庫がない場合はオリジナル品も使用するので在庫はしています。オリジナル品とR-SUD品の在庫比率は、製品によって違っていました。

おわりに

米国ではR-SUD製品の品揃えは日本と比較にならないくらい多く、製品の種類の多さ、明確なコスト削減効果、患者への同意の不要なこと、さらには持続可能な目標を実現するための「the Sustainability Analyst[※]」といった担当者の存在が、病院におけるR-SUD推進の原動力となっていることを把握しました。



スクラブに着替えて視察中



EPカテーテルとケーブルの収集箱



収集手順が記載されたポスター



ずらりと並んだ保管エリア



知っておきたい！ 用語解説

the Sustainability Analystとは？

持続可能性の観点から調達議論と決定に関与する専門家。米国の病院は通常、持続可能性の目標を掲げている。UCLAグループでは、再処理できる製品と環境に優しい製品かどうか調達の意思決定プロセスの一部となっている。

一般財団法人松本記念財団 創立10周年

当財団は、今年10周年を迎えたのを記念し、祝賀会の開催とこれまでの活動をまとめた動画を作成しました。

記念祝賀会を開催

医療人材育成のミッションを伝える

2023年6月26日(月)、ホテルメトロポリタン エドモント飯田橋において、(一財)松本記念財団の10周年記念祝賀会を開催しました。時節柄、30人程度の小規模な会でしたが、お陰様でアットホームな雰囲気の中、とても心に残る会となりました。海外からのメッセージや文化芸術を通じての国際交流も行ってきた関係から箏の演奏もあり、プログラムの中でグローバルに活躍する医療人材を育てる財団のミッションが芽生えていく様を実感していただくことができました。



祝賀会後の記念写真

活動ビデオを作成

10年のあゆみを紹介

2013年に創立以来の活動を紹介する動画を、日本語版と英語版で作成しました。こちらはYouTubeの「松本記念財団チャンネル」でご覧になれます。これまでの歴史はもとより松本代表理事、松本澁太理事、感染症コンサルタントの青木眞先生やNPO法人ロシナンテスの川原尚行先生など活動にご支援いただいた方からの多くのメッセージも含まれています。10年は一区切り、「3つの心」を大切にますます活動を進化させていく財団にこれからもご注目ください。



ビデオの一場面～3つの心

動画はこちらからご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/watch?v=8Eucf8EFaeY>



海を越えて旅をする “アサギマダラ”

当財団のHPのトップに登場するアサギマダラは、日本を縦断し2,000kmもの旅をする蝶。大きさは、翅を広げると10センチほどで、アゲハチョウくらいです。浅葱色(薄い水色)のまだら模様があります。移動の経由地のマーキング調査によると、春には沖縄・台湾から本州・北海道へ北上し秋にはこの逆をたどるそうです。空へ舞い上がり上昇気流に乗って遠くまで移動する様は、常に世界を俯瞰しながら活動する当財団に通じるものがあります。

(株)ファーサイド エグゼクティブディレクター/
 (一財)松本記念財団 マーケティングアドバイザー
佐藤義孝

ICNのための

英会話レッスン再始動



笑顔の素敵な Fallon 先生

(一財)松本記念財団では、ICN (Infection Control Nurses) の皆様に役立つ医学用語や基本的な患者対応としての少人数制の英会話コース「Positive English 4-U」を開設しています。今回からオンラインによるコースと対面形式のワンデイ集中レッスンの2コースをご用意して開催いたします。講師は、日本滞在歴30年の米国人女性講師 Fallon (ファロン) 先生で実践的な英語を楽しく学びます。日本人スタッフもサポートします。

ワンデイ集中レッスン

日時：2023年12月9日(土)
 13時～16時半
 場所：日本橋ライフサイエンスビル
 302号室
 受講料：3,000円

オンラインレッスン4回コース

日時：2023年11月14日(火)、21日(火)、
 12月5日(火)、19日(火)
 18時～19時
 受講方法：ZOOMにて
 受講料：1,000円/1レッスン

詳細は、コチラ
[→ https://www.matsumotofoundation.com/foreignlanguage](https://www.matsumotofoundation.com/foreignlanguage)

